

## 徳島県で確認されたヨツモンカメノコハムシ

大原賢二<sup>1</sup>・山田量崇<sup>2</sup>

[Kenji Ôhara<sup>1</sup> and Kazutaka Yamada<sup>2</sup>: Record of *Lacoptera quadrimaculata* (Coleoptera: Chrysomelidae) from Tokushima Prefecture, Japan]

キーワード：分布拡大，ヒルガオ科，南方系昆虫，侵入

### はじめに

ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg, 1789) は、幼虫、成虫ともにヒルガオ科の植物を寄主とするため、九州や南西諸島などではサツマイモ *Ipomoea batatas* (L.) Lam. の葉を食害する害虫としても知られている（竹内ほか，2012 など）。もともと南西諸島の沖縄本島以南に生息する種であったが（木元・滝沢，1994），次第に分布を拡げ，現在は九州本土だけでなく本州や四国でも確認されるようになった（酒井ほか，2008；竹内ほか，2012；吉富，2013；越知・吉富，2016）。

四国では，高知県西部における佐野（2014）の記録が最初と思われ，その後，越知・吉富（2016）によって，愛媛県南予地域（愛南町），高知県南西部（四万十市，土佐清水市など）と東部（奈半利町，室戸市）における発生が報告された。愛媛県と高知県では，本種がサツマイモの葉を食害したとして，それぞれ病害虫発生予察特殊報を発令している（愛媛県，2015；高知県，2016）。

徳島県では，2017年5月に県南部の海陽町において本種が初めて確認され，2019年には徳島市内でも発生が見られるようになった。本稿では，徳島県におけるヨツモンカメノコハムシの発生状況について報告する。

### 徳島県における発生状況

越知・吉富（2016）による分布状況から，徳島県へは高知県室戸市から侵入する可能性が高いとして注視していたところ，2017年5月23日に徳島県海陽町在住の有田忠弘氏より，ノアサガオ *Ipomoea indica* (Burm.)

Merr. の葉の上に静止する成虫の写真が提供された。同年5月27日に，大原と有田氏が海陽町穴喰と海南のノアサガオを調べたが，どの調査地でも数個体が確認されただけであった。この時点で，徳島県の病害虫防除所へも本種が徳島県南部に侵入したことを伝え，注意を促している。2017年は夏季にも海陽町穴喰にて調査したが，ノアサガオに目立った発生が見られず，さらにサツマイモの葉にも食痕はなく，分布が広がったようには見えなかった。2018年5月16日に，有田氏より海陽町で本種がかなり発生しているように感じると連絡があったものの，十分に調査を行えず，当時の発生状況は明らかにされていない。その後，2019年秋季まで県内の状況を把握できずにいた。

2019年10月9日に，佐那河内村根郷付近の人家の塀に絡みついて繁茂しているノアサガオの葉がひどく食害されており，急いで調査したところ，多数のヨツモンカメノコハムシの成虫が確認された。その後，大原と山田がそれぞれ県内各地で調査を行い，本種の発生が広範囲に及んでいることが判明した。

### 【採集・確認データ】

徳島県。徳島市：鮎喰町2丁目（図3，⑫），2 exs. (TKPM-IN-28942~28943)，2. XII. 2019，大原賢二；入田町（図3，⑬），9 exs. (TKPM-IN-28944~28952)，25. XI. 2019，大原賢二。佐那河内村：根郷（図3，⑭），5 exs. (TKPM-IN-18957-18961)，9. X. 2019，大原賢二；14 exs. (TKPM-IN-18962~18975)，20. XI. 2019，山田量崇。勝浦町：坂本（図3，⑮），2 exs. (TKPM-IN-18976~18977)，16. X. 2019，桑内 誠。牟岐町：灘東谷（灘神社）（図3，⑯），多数個体，大原賢二確認；中村（図3，⑰），8 exs.

2019年12月16日受付，12月17日受理。

<sup>1</sup> 〒770-8041 徳島市上八万町西山1023番地，1023 Nishiyama, Kamihachiman-cho, Tokushima 770-8041, Japan.

<sup>2</sup> 徳島県立博物館，〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園。Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima 770-8070, Japan.

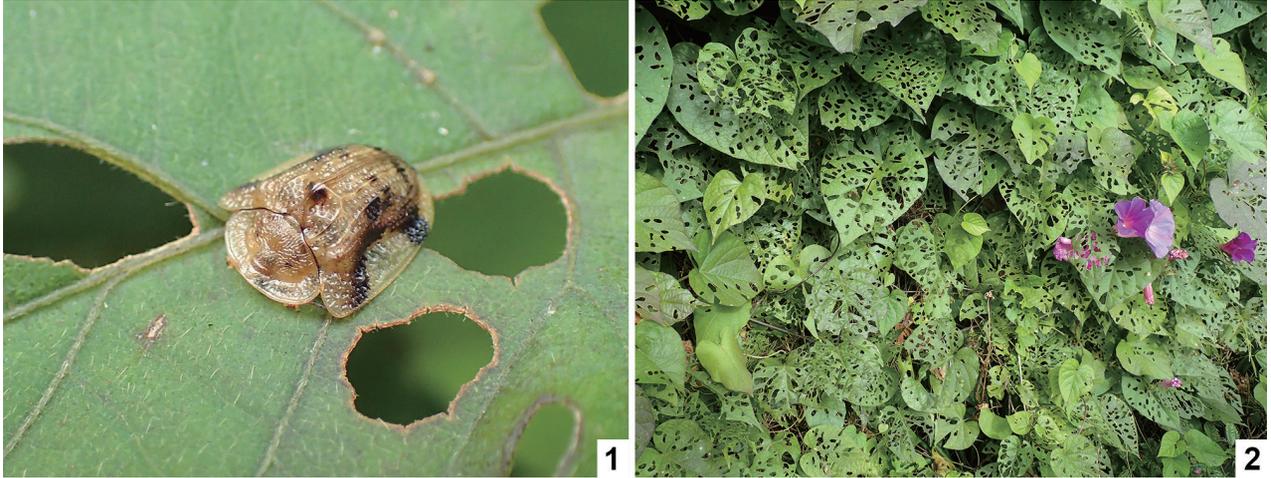


図1・2. ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* の成虫 (牟岐町中村) (1) と被害されたノアサガオ (佐那河内村根郷) (2).

(TKPM-IN-18978~18985), 24. XI. 2019, 山田量崇. 海陽町: 海南 (図3, ⑳), 1 ex. (TKPM-IN-18733), 23. V. 2017, 有田忠弘: 大里中須 (図3, ㉑), 10 exs. (TKPM-IN-18986~18992, 28860~28862), 24. XI. 2019, 山田量崇. 高知県. 東洋町: 白浜 (図3, ㉒), 5 exs. (TKPM-IN-28863~28867), 24. XI. 2019, 山田量崇. 室戸市: 佐喜浜町入木 (図3, ㉓), 7 exs. (TKPM-IN-28868~28874), 24. XI. 2019, 山田量崇.

〔徳島県内の未確認場所〕 (図3)

- 鳴門市: 鳴門町高島 (図3, ①), 撫養町林崎北殿町 (妙見山公園) (図3, ②), 里浦町里浦 (図3, ③)
- 松茂町: 豊岡 (図3, ④), 長原 (図3, ⑤), 中喜来 (松茂中央公園) (図3, ⑥)
- 北島町: 中村 (北島中央公園) (図3, ⑦)
- 藍住町: 勝瑞 (図3, ⑧), 矢上原 (図3, ⑨)
- 徳島市: 応神町 (図3, ⑩), 北佐古一番町 (図3, ⑪), 城南町 (図3, ⑬), 南二軒屋町 (図3, ⑭), 八万町 (図3, ⑮), 国府町 (図3, ⑯)
- 石井町: 石井 (前山公園) (図3, ⑰)
- 神山町: 神領北 (図3, ⑳)
- 小松島市: 中田町 (日峰神社) (図3, ㉑), 小松島町 (しおかぜ公園) (図3, ㉒)
- 阿南市: 畷町 (図3, ㉔), 中林町 (図3, ㉕), 福井町 (福井ダム公園) (図3, ㉖)
- 美波町: 北河内 (図3, ㉗)

2019年10月から12月までの短期間の調査であったが、徳島市、佐那河内村、勝浦町、牟岐町、海陽町の5市町村8地点で発生が確認された。加えて、高知県東洋町から室戸市にかけても高密度で生息していることがわかった。徳島県へは間違いなく高知県から侵入しており、

初めて見つかった2017年から約2年半の間に徳島県沿岸部を北上、主要道路に沿って勝浦町や佐那河内村といった内陸部へも侵入したとみなされる。県南部にあたる美波町で未確認となっているが、調査場所は交通量の少ない内陸部の道路沿い（日和佐道路開通に伴う従来の国道55号）のノアサガオ群落1か所であったため、本種がまだ侵入していない地域なのかもしれない。近隣地域の発生状況から考えると、日和佐など美波町の市街地を隈なく調査すれば、おそらく本種の生息が確認できると思われる。

本種はすべての地点においてノアサガオで発生していた。他県での状況と同様、人家の庭や塀、道路脇などのノアサガオから見つかった。また、徳島市入田町では河川敷で大規模に繁茂しているノアサガオでも多数見つかっている。松茂町の2地点（豊岡、長原）ではサツマイモの葉を調査したが、本種による食害は確認されなかった。時期的にサツマイモの収穫後であったため、十分に調査できておらず、2019年12月の時点でサツマイモの葉への被害は認められていない。本調査では県内を網羅的に調べられておらず、現時点では徳島市より北部における生息は確認されていないが、松茂町や鳴門市といったサツマイモの主要産地へはすでに分布を拡げている可能性は高い。本種の食草の嗜好性はサツマイモよりもノアサガオで高いのではないかという報告（佐野, 2014）もあるが、大原は鹿児島県で野生のヒルガオ *Calystegia japonica* (Thunb.) Choisy, サツマイモともかなり激しく食害されているのを観察していることから、本県においてもサツマイモ葉への被害がでる可能性はきわめて高いと思われる。今後の発生動態について十分に注意する必要があるだろう。

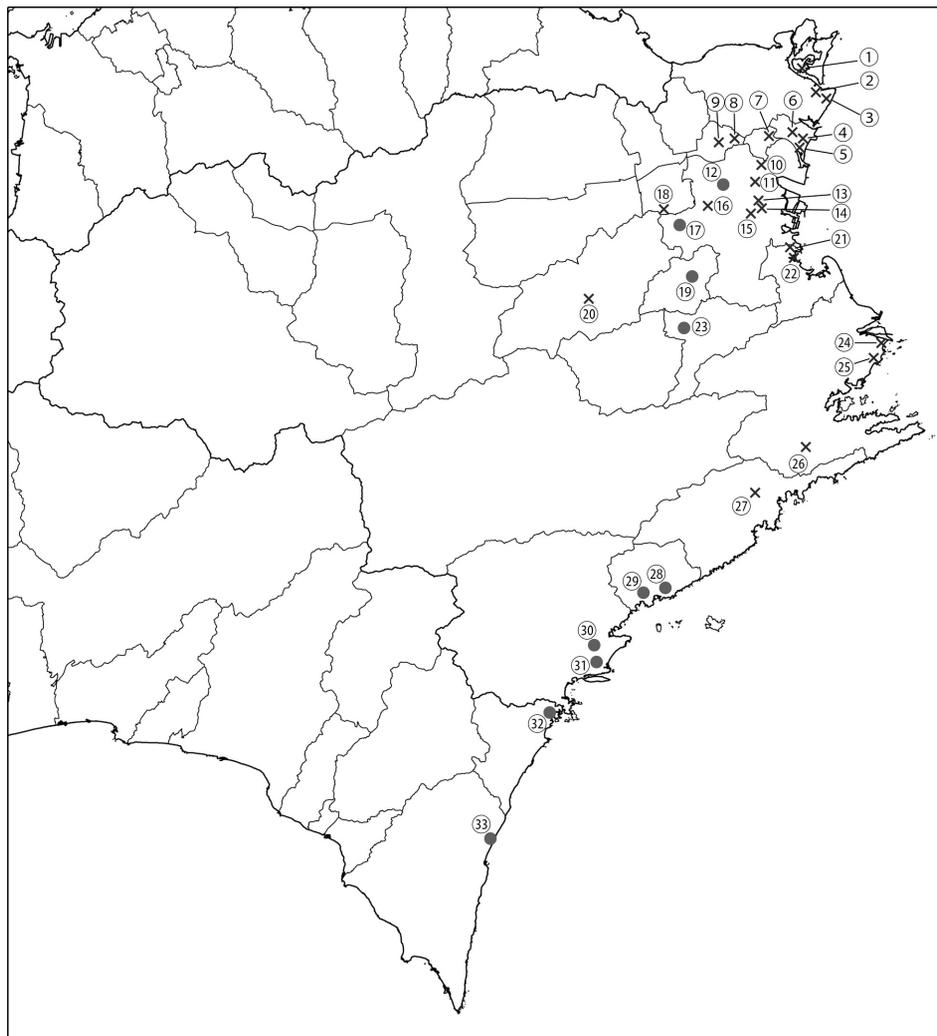


図3. 徳島県におけるヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera quadrimaculata* の分布状況(2019年12月まで)。  
●：確認，×：調査したが未確認。番号は本文中に示した。

## 謝 辞

末筆ではあるが、最初に本種を発見され、貴重な情報をご提供くださった有田忠弘氏、標本を提供いただいた桑内 誠氏、四国の発生状況についてご教示くださった愛媛大学の吉富博之 博士に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 愛媛県. 2015. 平成27年度病害虫発生予察特殊報(第1号). <https://www.pref.ehime.jp/h35118/2406/byocyubojohm/documents/h27tokusyuhouyotumonmanenokohamusi.pdf> (2019年11月30日閲覧).
- 木元新作・滝沢春雄. 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 p. 東海大学出版会, 東京.
- 高知県. 2016. 平成28年度病害虫発生予察特殊報第2号. <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/download/?t=LD&id=5692&fid=52690> (2019年11月30日閲覧).
- 越智あずさ・吉富博之. 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. さやばねニューシリーズ, 21: 51-56.
- 酒井孝明・倉田章久・石川 均. 2008. 本州に侵入したヨツモンカメノコハムシ. 月刊むし, (451): 15-16.
- 佐野信雄. 2014. 四国南西部におけるヨツモンカメノコハムシについて. へりぐろ, (35): 59-63.
- 竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子・沼沢健一・嶋田 綾. 2012. [大島特産園芸作物における生産進行技術対策] ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策. 東京都農林総合研究センター平成24年度成果情報一覧. <https://tokyo-aff.or.jp/uploaded/attachment/2522.pdf> (2019年11月30日閲覧).
- 吉富博之. 2013. 三宅島で確認した南方系移入甲虫2種. さやばねニューシリーズ, (13): 61.